

令和2年度 南アルプス市立若草南小学校学校関係者評価書

令和3年1月26日（火）
学校関係者評価委員会作成

第2回学校関係者評価委員会

実施日：令和3年1月26日（火）

場 所：若草南小学校校長室

参加者：学校関係者評価委員・教職員

古屋 雅樹（藤田区自治会長，学校評議員）紙面協力
深澤 喜久（浅原区自治会長，学校評議員）紙面協力
飯野 章（元学校長，教育ボランティア，学校評議員）
深澤 美香（主任児童委員，学校評議員）紙面協力
三井 亜紀（PTA 会長，学校評議員）
宮里絵里花（PTA 副会長，学校評議員）
河野 瑞穂（校長）
志村 泉（教頭）
青木 英明（教務主任）

1 学校側から提案の内容

- ①学校関係者評価の趣旨
- ②本年度の学校経営方針並びに現状
- ③学校評価の方法について
- ④評価の全体的な傾向について
- ⑤児童アンケートの内容と結果について
- ⑥教職員自己評価シートの内容と結果について
- ⑦まとめ：学校評価から見られる成果や課題，ならびに改善策について

2 協議された主な内容

- ①学校自己評価についての全体評価について
- ②項目ごとの評価・達成状況・改善策について
- ③今後の改善策について

《学校関係者評価書》

I 全体評価

教職員自己評価の結果は、すべての質問項目において肯定的回答が多数を占め、学校長の指導の下、学校教育目標達成のために全職員が協力して努力・改善していることがわかる。

全校児童のアンケートの集計結果は、全10の質問項目中、肯定的評価が90%以上の項目が8、80%以上の項目が1であり、全体的に肯定的評価が多い。児童アンケートの結果で、10携帯電話等の所有率については大きな差（増加）が見られた。1、2、3、4については改善が見られた。他の項目はほぼ1学期と同様な数値であった。

保護者アンケートの結果は、10項目のうち9つの項目で肯定的な回答が80%を超えており、概ね満足できる結果であった。あいさつについてはほぼ昨年度と差はなかった。

II 第2回学校評議委員会の中で出された主な意見

学校生活について

○「学校は楽しいですか？」について、96.9%の児童が回答しているがこれについては素晴らしいことだと思う。その楽しさからしっかりとした挨拶が生まれているものと思う。しかしながら、CとDの回答している児童もいること気になる。授業がわからなくなって楽しくないと感じる子や悩みを言えない子がいると思われる。

○学校生活について、「あいさつが当たり前でできる」「あいさつが気持ちよくできる」ことは素晴らしいこと。せっかくなので、今後はあいさつの正しい行い方の徹底を図ったらどうか。相手からあいさつされたら、自分も口先だけであいさつするのではなく、自分から進んで相手の目を見て頭を下げながら、その場に止まってあいさつすることを教えていく。小笠原流礼法を確認していくことも大切である。

「進んであいさつをする」においては、AとBの回答の割合が気になる。今のご時世、知らない人と目を合わせるなど難しいのかもしれませんが、伏し目がちにあいさつする子が多い気がする。

○行事が少なく、授業も4・5月分の取戻しのため大変だったと思う。そんな中、あいさつの指導が前期よりマイナス評価がなくなったことは素晴らしい。

児童と保護者の回答に開きがある。あいさつの基本は家庭教育にあると思う。今後も家庭への啓蒙をしながら、学校・家庭・地域が一体となって取り組んでほしい。

○多くの項目で改善が見られ、総じて質の高い学校教育がなされている。一方で、「困ったとき誰かに相談できますか」は否定的な回答が目につく。困ったときに相談できる環境がない場合、負の事象の発生が高まると考えられる。相談体制を一層整備し、安心安全な学校教育につなげてほしい。

子ども一人一人の生活を守る、安心・安全で楽しい学校生活を送るうえで、学校としては常に配慮すべき項目である。学校としては担任が一人一人の子供と信頼関係を築き、何でも話せる先生、心が開ける先生を望みます。また、家庭との連携を密にし、生徒指導・教育相談の充実を図ってほしい。

○運動会・修学旅行等、主要な行事は工夫を凝らす中、実施できて保護者も満足している。

- 否定的評価をする児童も少なからずいる。こういう児童に対して、これからもできるだけ多くの先生方が関わり、共通理解を図りながら、子供に寄り添ったきめ細かいご指導をお願いしたい。
- 学校のすべての先生が心を寄せ合い、一致団結して教育活動に推進していくことは、教育環境の中で最も大切なことである。南小の子どもたちが伸び伸び学校生活を送り、また、保護者や地域からも学校教育に寄せる期待が大きいのも日頃の先生方の取組のおかげである。
学校行事については、感染予防対策を十二分にとり、無事終了され本当にご苦労様でした。子供達から見れば、コロナ禍の中での活動で一層子どもたち同士協力し助け合う、お互い気遣いし合うなどの成長が見られたと思う。
- 職員アンケートにおいては、子供達のことを考えてコロナ禍においてどのように今までと同じように・・・と悩まれたことの回答のような気がする。大変だとは思いますが頑張ってほしい。

学習について

- 残念なのは、「授業がわかりますか」「授業中に質問意見を言いますか」に対する回答で、前回は下回っていること。原因はいろいろとあると思うが、しっかり原因分析して、今後の授業に活かしてほしい。今後、コロナがすぐに収束するとは考えられないので、コロナ禍に対応した授業の在り方を模索していく必要がある。
- わかる授業と児童の学力向上について、様々な工夫をしながら実践していることが分かった。今後も創意工夫をしていただき、児童が楽しい小学校生活が送れるようにご努力いただきたい。
- 授業中の発言や質問・意見の項目は、今の若い子の様子から、コミュニケーションの不足や自信のないことが原因のような気がする。先生方の取組を期待する。

家庭・地域について

- 「家庭学習の習慣」について、各家庭の事情もあると思うが、事例発表会等による他の家庭の状況を知ることも必要かと思う。他の家庭の取組を参考にすることが今後の充実した家庭学習につながるものと思う。
- 家庭は様々な生活様式があり、実態もいろいろです。家庭学習が習慣化するには、時間をかけて粘り強く家庭との連携を密にしていくことが肝要です。また何と言っても学習する楽しさ、意欲をもたせる指導が大事であります。引き続き、これまでの成果や課題をふまえ、継続して指導をお願いしたい。

まとめの意見

- 新型コロナウイルスの収束が見えない中、感染予防対策で多くの時間や労力が費やされ、それだけでなく多忙化している学校現場で日々御苦労されている先生方に感謝します。コロナ禍から多くのことを学び、収束したときには子供達も、先生方も大きく飛躍できるように期待しています。
今一番に取り組まなければならないことは、新型コロナの感染防止だと思う。学校行事でどうしても行わなければならないこともあるかと思う。しかしながら、児童・教師・保護者等が感染してしまうと、今以上に身動きが取れなくなってしまう。コロナ対策としていろいろな規

則・ルールを掲げていると思いますので、しっかりと守っていただき、早く終息させて子供達の大きな声で遊ぶ姿をみたいと願っている。

- 児童・職員ともアンケートからは肯定的な結果が大多数で、双方とも満足できる学校づくりができてることがうかがえる。今後も学校・家庭・地域の連携を強化し、これが維持できるように取り組んでほしい。
- 学習や集団生活も大事であるが、親としては楽しく学校に行けているか、友達と仲良くできているかが気になる。アンケートで先生方と保護者・児童の結果に違いがある。0%にするのは難しいと思うが、学校が楽しい場所であってほしい。

Ⅲ今後の改善策・重点課題について

学校生活について

- あいさつの響く学校を目指し、家庭・地域と連携した取り組みを展開する。
- わかる授業・伝え合う授業に向けてさらに改善を進め、一人ひとりの学習意欲が高められる工夫を重ねる。コロナ禍における授業の在り方を模索する。
- 教師が児童一人ひとりとさらに信頼関係を築き、子供の悩みに寄り添えるようにする。居心地の良い学級づくりを意識し継続していく。

家庭・地域について

- 家庭学習の定着に向け、保護者の理解と励ましなどの協力を得ながら、さらに取組を進める。習慣化を図るために家庭生活全般をふり返り、見直す取組も進めていく。電子メディアの使い方について啓発のため、アウトメディアの取組も合わせて行う。
- 今回、工夫して学校開放ができた。保護者の意見もふまえ、子供の安心と安全を守りながら開かれた学校を目指す。
- 中学校の話し合いでも課題になったが、子ども社会のスマホ等におけるオンラインゲーム、SNSなどのトラブル対応がこれから大変になってくると思う。親の考え方も環境もそれぞれ違う。学校と家庭の連携のもと、取り組むことを期待する。